

オーストラリア人観光客の周遊可能性について*

Trip Extension Possibility of the Australian Tourists Visiting Niseko To Other Areas in Hokkaido*

中村幸治**・蜷川浩一***

By Koji NAKAMURA**・Koichi NINAGAWA***

1. はじめに

近年、後志管内ニセコ羊蹄山麓エリアを訪れる外国人観光客が急増しており、そのほとんどは、冬季にスキーを目的としたオーストラリア人観光客である。

「シーニックバイウェイ北海道」支笏洞爺ニセコルートの活動団体もニセコ・洞爺湖・支笏湖の連携を考える、広域連携フォーラムを開催するなど、地域住民も外国人観光客誘致に向けた気運が高まっている。^[注]

3エリア連携による周遊観光促進の目的としては、ニセコには無い他の地域の資源・魅力を活用することによる、リピーター率の上昇や滞在日数の延長などが考えられる。

本論文では、ニセコ地域を訪れる外国人観光客（主にオーストラリア人旅行者）の周遊・レクリエーション活動に対するニーズを明らかにすることを目的とし、観光事業者を対象としたヒアリング調査や外国人観光客を対象としたモニターツアーによる実証的な検証を行った結果を報告する。また、調査結果から支笏洞爺ニセコルートにおける外国人観光客の今後の周遊観光の可能性について考察した。



提供 NPO 法人 WAO ニセコ羊蹄再発見の会

図-1 支笏洞爺ニセコルート3エリアの位置関係

2. ニセコ羊蹄エリアにおける外国人観光客の実態

(1) 外国人観光客入り込みの推移

a) 外国人観光客入り込み数(延べ宿泊数)の推移

平成13年度以降、平成16年まで増加傾向となっている。特に倶知安町では平成15年急激な増加傾向を示しており、平成16年には55,320人泊と平成13年度比1,300%に達した。(図-2)

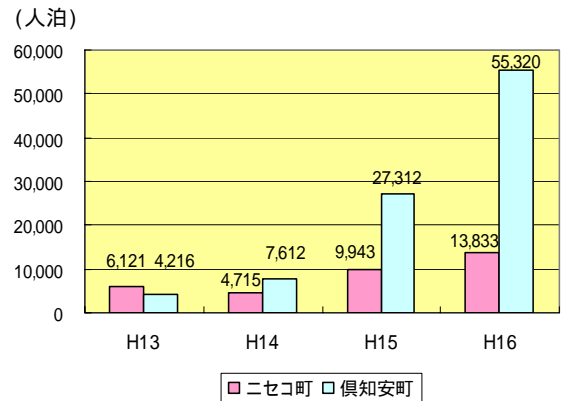


図-2 ニセコ町・倶知安町における外国人観光客延べ宿泊数の推移¹⁾

b) 外国人観光客入り込み数(延べ宿泊数)の月別変動

ニセコ・倶知安両町における外国人観光客の入り込みの現状を月別に見ると、両町で入り込みパターンが異なっていることがわかる。ニセコ町では、7、8月の夏休み期間と12～3月のスキーシーズンの2シーズンに山があるのに対して、倶知安町では12～3月のスキーシーズンのみの特化しているのが特徴となっている。(図-3)

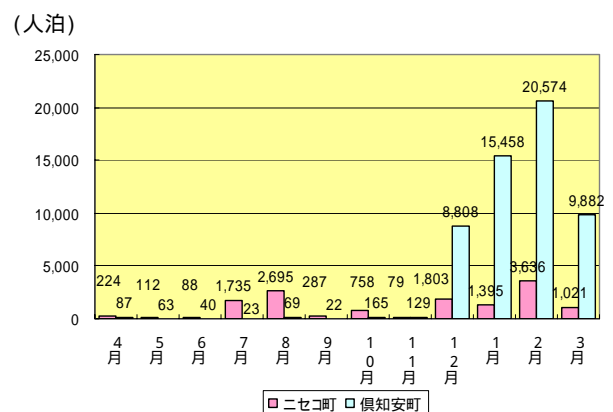


図-3 ニセコ町・倶知安町における月別外国人旅行者延べ宿泊数¹⁾

c) 外国人観光客の国別入り込み数(延べ宿泊数)の現状

ニセコ町は全体の70%強を「韓国・台湾・香港」といった東アジア地域が占めているのに対して、倶知安町では全体の83%を「オーストラリア他」が占め、東アジア地域からの観光客は全体の14%程度に過ぎない。(図-4)、(図-5)

*キーワード：シーニックバイウェイ、観光・余暇
 **正員、工修、(社)北海道開発技術センター
 (北海道札幌市中央区南1条東2丁目11番地
 TEL011-271-3028、FAX011-271-5115)
 ***非会員、国土交通省 北海道開発局 小樽開発建設部
 (北海道小樽市潮見台1丁目15-5、
 TEL0134-23-5131、FAX0134-25-1465)

倶知安町

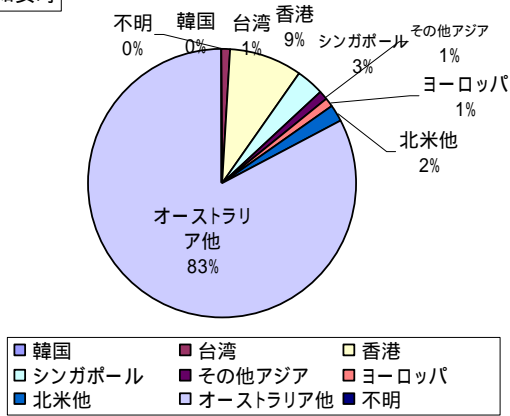


図-4 倶知安町における国別外国人旅行者延べ宿泊数¹⁾

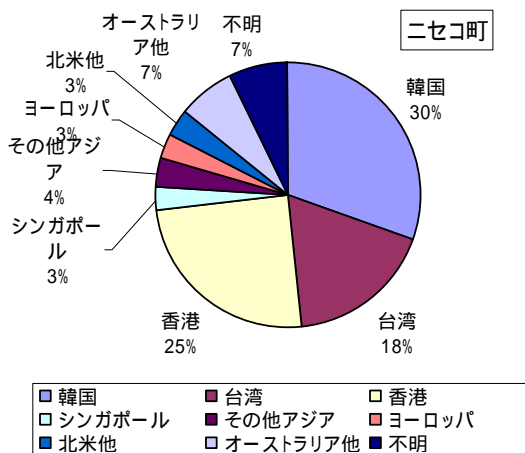


図-5 ニセコ町における国別外国人旅行者延べ宿泊数¹⁾

(2) 倶知安町(ひらふ地区)における

オーストラリア人観光客入り込み急増の背景

倶知安町へのオーストラリア人観光客入り込み急増は、主として同町ひらふ地区へのスキー客によっている。こうした急増の背景として、成澤・市岡²⁾は以下の点を指摘している。

- ・ 9.11テロ事件で日本の安全性が見直された
- ・ 地域資源の優位性(特にパウダースノー)
- ・ 飛行近距離(新千歳8時間<カナダ17時間<欧州20時間)
- ・ 時差(日本1時間<欧州6時間<カナダ17時間)
- ・ 安価(日本21万円<カナダ25万円<欧州27万円)
- ・ オーストラリアの好景気・オーストラリアドル高
- ・ ニセコ地域でアウトドアビジネスを始めたオーストラリア人実業家たちを中心とした口コミによる情報発信・広報

3. 調査結果概要

(1) 観光事業者等を対象としたヒアリング調査

a) ヒアリング調査概要

ニセコ地域を訪れる外国人観光客の現状を把握するため、実際に受け入れをしている観光事業者等に対してヒアリング調査を行った。調査は主に倶知安(ひらふ地区)およびニセコ(東山地区周辺)の宿泊業および観光事業者等を対象に実施した。(表-1)

表-1 ヒアリング調査概要

調査期間	平成17年12月19日(月)~20日(火)
調査対象	倶知安およびニセコの宿泊業および観光事業者5箇所(ランドオペレーター、ホテル等)

調査項目としては、外国人利用の現状(国別内訳、平均宿泊日数、グループ形態、年齢層等)、滞在形態(スキーでの外出時間、多い問合せ内容、苦情や要望等)、モニターツアー意向、外国人誘致の意向(今後の意識や戦略)、景観社会資本等に関する要望等とし、モニターツアー実施に向けた検討課題を整理した。

(表-2)

表-2 観光事業者を対象としたヒアリング意見整理

項目	観光事業者からの意見
外国人利用の現状	<ul style="list-style-type: none"> ・ オーストラリア、香港、シンガポール在住の白人層が主流であるが、台湾在住のアジア層も滞在している。 ・ 年代別では家族(夫婦40~50歳代)、仲間同志(20~30歳代)が中心。 ・ スキー志向別ではコアな層(スキーが主目的)、他目的のある層(同伴者、子供)と大きく分かれる。 ・ 形態別では家族(同伴の子供は中高生程度が中心)、仲間同志が中心だが、基本はFIT(Foreign Independent Tour: 個人旅行者の略)が大半を占めている。
滞在形態	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平均滞在日数は、10日前後と長期滞在。 ・ コアなグループ 0800~1600までスキー、夜はアフタースキーを楽しむ傾向。 ・ ファミリーや高所得層は午前中スキーを楽しみ、午後は休憩、夜はアフタースキーを楽しむ傾向。 ・ JRを使い、小樽、札幌へ観光に行っている層も結構みられる。
モニターツアー意向	<ul style="list-style-type: none"> ・ モニターツアーを選択する可能性のある場合 <ul style="list-style-type: none"> ・ 荒天でスキーができない場合 ・ 同伴の奥さんや子供が小さい場合 ・ 彼らの興味のあるアクティビティが提供される場合 ・ 日帰りツアーは特に問題はない ・ 宿泊ツアーは、滞在中の宿泊施設と重複するので、新たなコスト負担に課題がある
外国人誘致の意向	<ul style="list-style-type: none"> ・ もっと増やしたい。(可能性はある) ・ 冬だけではなく、夏の集客にも重点を置く。 ・ そのためには、香港やシンガポール等のアジア圏を主対象とした新たな戦略が必要。
景観社会資本等に関する要望	<ul style="list-style-type: none"> ・ ドライブルートは美しい方が良い。 ・ 景観に対する規制がないので、今後の乱開発への不安が残る。 ・ 歩いて楽しめる場所(建築協定のある街並み) ・ 行き先案内の多言語表記があると良い。
その他) 苦情や要望	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉が通じない。対応できるスタッフ不足。 ・ 道路標識がわかりにくい。 ・ 詳細な観光情報提供の不足。 ・ ATM、キャッシュカードが使えない。 ・ 周辺観光エリアへの交通アクセスの不便さ。 ・ スキー以外のメニュー(自然体験等)の問合せも多い(特に、奥さんや子供連れに多い) ・ 日本的事業(着付、お茶、お花等)についての問合せが多い ・ 地元の特産品を提供するレストランが少ない。 ・ お土産のレベルが低い

b) ヒアリング調査結果のまとめ

ほとんどのグループが長期滞在のため、スキー以外のアクティビティに関する問い合わせが多く、興味の

あるテーマとしては、自然体験や日本文化、地元の食事も買い物に対する関心が高いことがわかった。

また、各種情報発信に対する要望も多数挙げられている。現在ひらふ地区では東急リゾートが「ウェルカムセンター」を供用しており、ひらふ地域の英語による情報提供は高水準である。しかし、他地域については、媒体・提供方法ともに検討が必要であることから、より総合的な情報提供拠点が必要である。

(2) 外国人観光客を対象としたモニターツアーの実施

a) モニターツアー実施概要

支笏洞爺ニセコルートにおける周遊観光の可能性について検証することを目的として、外国人観光客を対象としたモニターツアーを実施し、実証的な検証を行った。調査は、支笏湖方面ツアー、洞爺湖方面ツアーそれぞれで行った。

表-3 モニターツアー実施概要

ツアー実施概要	支笏湖方面ツアー	
	日時	平成18年2月15日(水)
	訪問地	道の駅「フォレスト276」 支笏湖ビジターセンター 丸駒温泉(温泉) 支笏湖水濤まつり 休暇村支笏湖(日本料理、温泉)
	参加者数	12名(豪人8, 露人2, 香港人2)
	洞爺湖方面ツアー	
	日時	平成18年2月22日(水)
	訪問地	まっかりスノーモービルランド 道の駅「230ルスツ」 昭和新山雪合戦 洞爺湖遊覧船 火山科学館 旭ホテル(日本料理、温泉)
	参加者数	20名(豪人18, 香港人2)

b) モニターツアー調査概要

調査方法は、ツアー基本催行条件と内容については五段階評価選択式(最大評価を5とする)とし、有料にした場合の適正価格については自由記述式とした。

調査結果として、この後記載する評価点と適正価格が、全参加者数で割った平均値として算出した。

(表-4)、(図-6)、(図-7)

表-4 モニターツアー調査概要

調査方法	参加者によるヒアリングシートへの記入式調査	
調査項目	ツアーの基本催行条件に対する評価(五段階評価選択式) ・期間、時間帯、参加費用	
	ツアーの内容に対する評価(五段階評価選択式) ・訪問地、情報提供	
	有料にした場合の適正価格(自由記述式) 上記3項目については、ツアー毎の全参加者数で割った平均値を算出している。	
全参加者数	支笏湖方面ツアー	12名(豪人8, 露人2, 香港人2)
	洞爺湖方面ツアー	20名(豪人18, 香港人2)

c) 支笏湖方面ツアー調査結果

ツアーの基本催行条件に対する評価点は、「ツアー満足度」が4.8と高く、概ね好評といえるが、2時間

弱といった「移動時間」や「ツアー時間設定」に課題が残る結果となった。

ツアーの内容に対する評価点は、「支笏湖休暇村(日本料理、温泉)」と「丸駒温泉」が、ともに4.8と最も高く、次いで「支笏湖水濤まつり」も4.6と高い評価となっている。(図-6)

適正価格については、日帰りの場合が10,200円、1泊2日の場合が20,400円という結果が出ている。

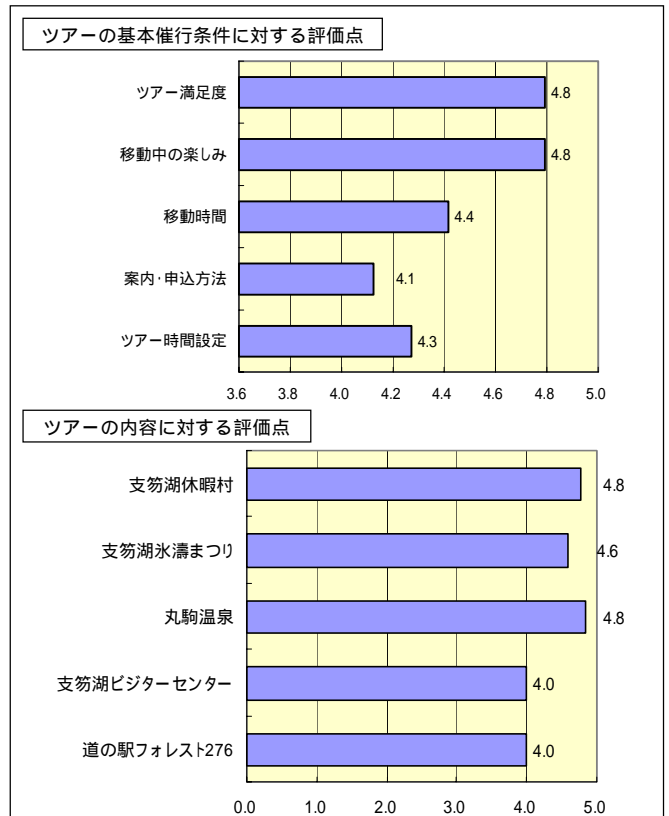


図-6 ツアーに対する評価点(支笏湖方面ツアー)

表-5 支笏湖方面ツアー参加者の自由記入意見要約

支笏湖方面コース	<ul style="list-style-type: none"> ・すごい体験をした。次はもっとゆっくり過ごしたい ・湖と背景の山並みなどの自然に究極の美を感じた ・現地のスタッフが親切で演出・対応もすばらしかった ・温泉の景観・サービスは、ファーストクラスだった ・今まで食べた中で最高の日本料理だった ・温泉でのマナー等を英語で解説してほしい ・英語標記、パンフレット、解説の充実を望む
----------	--

d) 洞爺湖方面ツアー調査結果

ツアーの基本催行条件に対する評価点は、「ツアー満足度」、「移動中の楽しみ」がともに5.0の最高評価点となっている。また、「移動時間」が4.7、「ツアー時間設定」が4.6と評価が高くなっている。

ツアーの内容に対する評価点は、「旭ホテル(日本料理、温泉)」が5.0と最も高く、次いで「スノーモービル乗車体験」が4.7、「雪合戦体験」が4.6となっており、現地スタッフの対応が良かったメニューの評価が高くなっている。(図-7)

適正価格については、日帰りの場合が12,400円、1泊2日の場合が24,500円という結果が出ている。

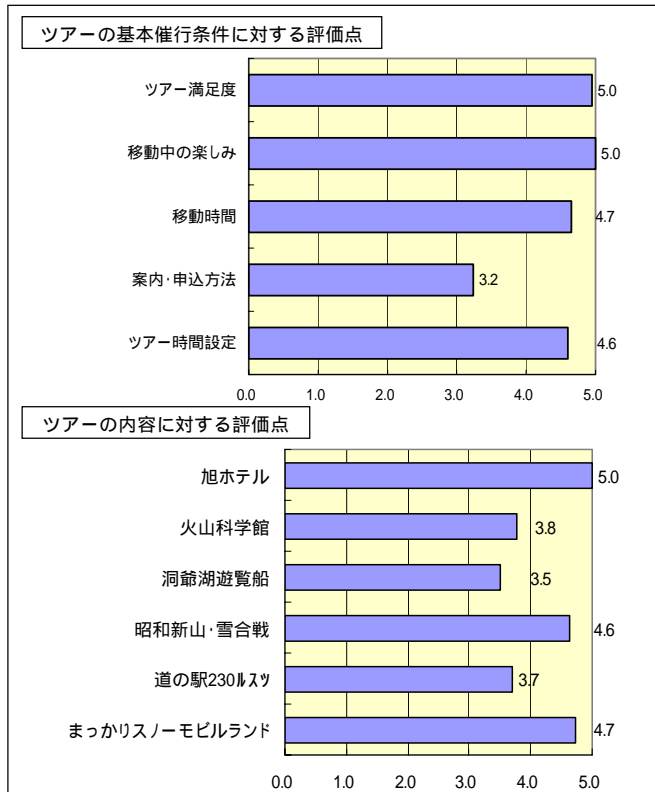


図-7 ツアーに対する評価点(洞爺湖方面ツアー)

e) モニターツアー調査結果のまとめ

2つのツアーに共通していえることは、「温泉」、「日本食」の人気と参加・体験型メニューに対する評価が高かったことである。これは、自由記入意見にもある通り、地元の方々のホスピタリティが大きく影響している。(表-5)、(表-6)また、洞爺湖方面ツアーの方が移動時間、ツアー設定時間ともに評価が高いのは、支笏湖方面ツアーと比較して、目的地までの移動時間が半分の約1時間ということが影響していると考えられる。しかし、立ち寄るだけや鑑賞するような、いわゆる静的なメニューは、あまり評価は高くなかった。つまり、地元の人と外国人観光客がコミュニケーションを密に取ることができたメニューの満足度が高く、高い評価につながっている。

一方で、情報提供や買い物などの改善要望が挙げられるなど、対応すべき課題は残っている。

表-6 洞爺湖方面ツアー参加者の自由記入意見要約

洞爺湖方面コース	<ul style="list-style-type: none"> ・現地スタッフの方々の対応がとても良かった ・森林や自然体験のできる散策コースがあると良い ・スノーモビル、雪合戦はとても興奮した ・温泉、浴衣、食事、雪など日本文化を体験できた ・女将さんの真のホスピタリティが嬉しかった ・英語インフォメーション、解説の充実を望む ・土産品の選択肢が少なかった。充実を望む
----------	--

4. 周遊観光についての課題と考察

(1) 調査を通じた課題

今回の調査を通じた課題として、以下の項目が挙げられる。

- ・ スキー以外の提供メニュー不足
- ・ 食事や買い物のニーズに対応できてない
- ・ 支笏湖や洞爺湖までの移動時間
- ・ 不便な交通アクセス
- ・ 外国人観光客にとってわかりやすい情報提供

(2) 周遊観光促進の6つのポイント

上記の課題をふまえ、今後の周遊観光の可能性について考察する。

a) スキー以外のアクティビティの充実

羊蹄山を中心とした森林ツアー(家族で手軽に体験できる内容、自然の中での迷路)やニーズの高い日本文化体験メニュー(着付、お茶、お花など)の充実。

b) おもてなし料理と買い物

地場産品等を活用した、付加価値の付いたおもてなし料理や日本や北海道の文化などに触れることのできる店舗、メニュー、商品づくり。

c) 移動中の景観、立ち寄りポイントの充実

自然環境、景観に配慮した道路標識や休憩することのできるビューポイントの整備等。

d) 移動手段、交通アクセスの充実

バス会社やタクシー会社、観光ホテル等の協力による、シャトルバスの定期運行や外国人観光客も容易にレンタカーを借りることのできるシステムづくり。

e) 適切な情報発信・情報提供

多言語対応の情報提供(ホームページ、パンフレット、案内看板等)、現地スタッフの対応。また、観光商品としての地元観光エージェントへの売り込み。

f) 地域住民のホスピタリティ

地域住民と外国人観光客のふれあいの場の提供。やはり、コミュニケーションによるおもてなしは重要。

5. おわりに

本調査で実施したモニターツアーはサンプル数が32と小規模だったため、一概に外国人観光客のニーズが明らかになったとは言えない。しかし、多くの外国人観光客に接している観光事業者のヒアリングにおける課題と同様の結果が確認出来たことから、周遊観光の可能性についての一つの実証的な証拠が得られたといえる。今後は、民間と行政の役割分担を明確にしながら、さらなる魅力向上と世界に誇れるリゾート地としての確立に向けた取り組みを進めていく必要がある。

注 釈

[注] 平成17年4月、NPO法人WAOニセコ羊蹄再発見の会がニセコ・洞爺湖・支笏湖の連携を考える、広域連携フォーラムを開催。3エリアによる観光空間としての新たな魅力づくり等について意見交換を行った。

参考文献

- 1) 北海道経済部観光のくにつくり推進室：北海道観光入込客数調査報告書，2005年
- 2) 札幌国際大学 観光学部
- 3) 日本貿易振興機構 北海道貿易センター：ニセコ地域における外国人の観光と投資状況に関する報告書，2006年
- 4) 鬼塚義弘：季刊国際貿易と投資，ニセコ地域への外国人観光客急増とその理由，63, Spring 2006